聖心キャンパス

第215号の主な記事

・さくら寮完成
・平成30年度懇談会開催報告
・平成30年度協力会総会開催報告
・財務状況報告
・４号館だより
・Campus News
・学生の社会活動　他

さくら寮完成

2018年４月に完成した「もみじ寮」につづき、６月には「さくら寮」がOPENしました。
新学寮は８つの個室と共用スペースで構成されたユニットが44入り、その他に自習室、フィットネスジム、防音のピアノセルなどの設備が整っています。
12月には「もみじ寮」と「さくら寮」のあいだに、食堂となる中央棟が完成する予定です。

リビング

キッチン

畳の大広間

多目的室

ハウス（ユニット）入口

被災地支援活動について発表する学生。
発表のくわしい内容は８ページに掲載しています。

平成30年度 聖心女子大学 懇談会開催報告

６月23日㈯、本年度の聖心女子大学懇談会が開催されました。１年次生の保護者201組247名、２年次生97組124名、３年次生92組116名、４年次生21組25名。合計411組512名でした。雨含みの天候にもかかわらず多くの保護者の皆様の御参加を得ましたことに、心より感謝申し上げます。

改装なったマリアンホールで、午前中の就職ガイダンスで幕を開け、午後は協力会に続いて全体会。新しい聖心女子大学を紹介する学長の挨拶の後、それぞれ参加学生を交えて、人間関係学科の菅原教授が東日本大震災後の本学の被災地支援活動の総括報告を、教育学科の植田教授からは、福島県いわき市での太陽光パネルを利用したエネルギー支援に関わるスタディツアー紹介を行いました。その後は分科会で、学科専攻の案内や、教務課、学生生活課を中心に個別相談ブースを設け、留学、キャリア支援などについて様々な皆様のお声を伺いました。そのほかパレス見学、クニハウスでの聖心女子大学の歴史展示、本学の難民支援学生団体SHRET主催のプロジェクトで、食を通して難民を知り、1食ごとに寄付を集めて難民の方々を支えるMeal for Refugeesの提供と、盛りだくさんのメニューを楽しんでいただきました。

昨年秋オープンした4号館グローバルプラザへの関心が非常に高く、残念ながら昼食時にはカフェジャスミンが非常な混雑をきたしました。対応の不備をお詫びいたします。

新学寮見学会と語学研修説明会も好評を得たことを申し添えて、ではまた。来年。

学生担当副学長
川津　誠

各学科別分科会（英語英文学科）

学食体験会（学生食堂）

「聖心女子大学の歴史」展示
（クニハウス）

平成30年度 聖心女子大学 協力会総会開催報告

聖心女子大学協力会は、在学生の父母、卒業生及び卒業生の父母が会員となり、長年に亘り聖心女子大学の教育環境を整備するために多大な支援を行っている。このたび、平成30年度の総会が去る6月23日(土)午後1時からマリアンホールにおいて開催された。

総会には濱口会長、宇野監事、羽渕監事が列席し、大学側から協力会名誉会長である岡崎学長、北村評価・大学院担当副学長、佐々木学務担当副学長、川津学生担当副学長、伊豆藏図書館長、原田経理部次長が出席した。

議案の審議に入る前に岡崎学長から、大学が進めているキャンパス整備計画に沿った、マリアンホールの耐震改修、4号館（聖心グローバルプラザ）の整備・活用、全面的な建替となった新学寮などの紹介とともに、協力会役員や会員によるグローバル教育環境整備募金への協力に対する謝意表明があった。

次に、濱口会長からの挨拶に続いて、議案の審議に入った。第1号議案「平成29年度事業報告及び決算について」では、原田経理部次長より、大学事業への各種補助が合計4400万円行われたこと、および決算については、正会員、賛助会員による前年比での納入率の低下により、会費納入額が予算対比で下振れ、収入総計で約325万円の減収だったとの説明があった。

第2号議案「平成30年度事業計画及び予算案について」は、会費納入額について、前年度対比の入学者数の増加と、会費納入方法の多様化によって前年度並みの会費納入額を見込むが、前期繰越金の減少を受けて、大学への補助額は前比2百万円減の4200万円としたいとの説明があった後、第1号議案とともに一同に諮られ、承認された。

第3号議案「協力会役員・監事選任について」は、正会員選出候補者4名（新任）、賛助会員選出候補者11名（再任）及び監事候補者2名（再任）について、関係する会則と共に説明があった後、一同に諮られ、承認された。この後、正会員選出役員4名の紹介を経て閉会した。

（総務課）

平成29年度決算（自平成29年4月1日　至平成30年3月31日）

収入				支出			
項目	予算A	決算B	差額B－A	項目	予算A	決算B	差額B－A
前期繰越金	6,644,663	6,603,027	△41,636				
正会員会費	38,800,000	35,910,000	△2,890,000	大学事業への補助	44,000,000	44,000,000	0
賛助会員会費	7,500,000	7,140,000	△360,000	学生配付品	580,000	579,420	△580
預金利息	500	252	△248	事務費	2,100,000	2,056,757	△43,243
その他	0	1,500	1,500	次期繰越金	6,265,163	3,018,602	△3,246,561
総計	52,945,163	49,654,779	△3,290,384	総計	52,945,163	49,654,779	△3,290,384
				前受金	500,000	1,650,000	1,150,000
				期末預金残高	6,765,163	4,668,602	△2,096,561

平成29年度大学事業への補助

前年度の増収による繰越金の増加を受けて、予算どおり、前年度比2,000,000円増額の44,000,000円を大学事業への補助としました。内訳については、次のとおりです。

項目	金額（円）
図書購入費（現代日本文学（全7巻）、西洋美術の歴史（全8巻）　他）	14,000,000
課外活動費（クラブ活動費等）	7,500,000
学生食堂経費（食材費、光熱水費等）	7,000,000
奨学金（外国人留学生を含む在学生への給付等）	14,000,000
保健センター・学生相談室経費（健康診断等）	1,500,000
合計	44,000,000

平成30年度予算案（自平成30年4月1日　至平成31年3月31日）

収入				支出			
項目	29年度決算A	30年度予算B	差額B－A	項目	29年度決算A	30年度予算B	差額B－A
前期繰越金	6,603,027	3,018,602	△3,584,425				
正会員会費	35,910,000	39,000,000	3,090,000	大学事業への補助	44,000,000	42,000,000	△2,000,000
賛助会員会費	7,140,000	7,350,000	210,000	学生配布品	579,420	690,000	110,580
預金利息	252	250	△2	事務費（注）	2,056,757	2,060,000	3,243
寄付金	1,500	0	△1,500	次期繰越金	3,018,602	4,618,852	1,600,250
総計	49,654,779	49,368,852	△285,927	総計	49,654,779	49,368,852	△285,927
				前受金	1,650,000	500,000	△1,150,000
				期末預金残高	4,668,602	5,118,852	450,250

財務状況報告

〈平成29年度決算状況〉

平成29年度決算は、収入面では当年度入学者からの学納金改定、「グローバル教育環境整備募金」を中心とした寄付金の募集、施設設備国庫補助金等により増収となりましたが、支出面でキャンパス整備事業の本格稼動に伴う施設設備関連経費支出及び減価償却引当特定資産繰入支出等の資産運用支出も大きく増加しました。

引き続き経費の節減に注力するとともに、学納金の改定（平成29年度新入生より順次）や募金事業等の増収策を順次進めていますが、現時点ではキャンパス整備事業の経費負担が先行していることもあって、支出超過の状態となっています。また、基本金もそれに伴って増加しており、繰越収支差額はマイナス64億円に拡大しています。

支出超過の状態を早期に解消すべく、引き続き種々の対策に注力していく所存です。

なお、新学寮については、平成30年3月に南棟（もみじ寮）、6月に北棟（さくら寮）の供用を開始し、平成31年1月頃までに中央棟（食堂等）の供用を開始して完成となる予定です。

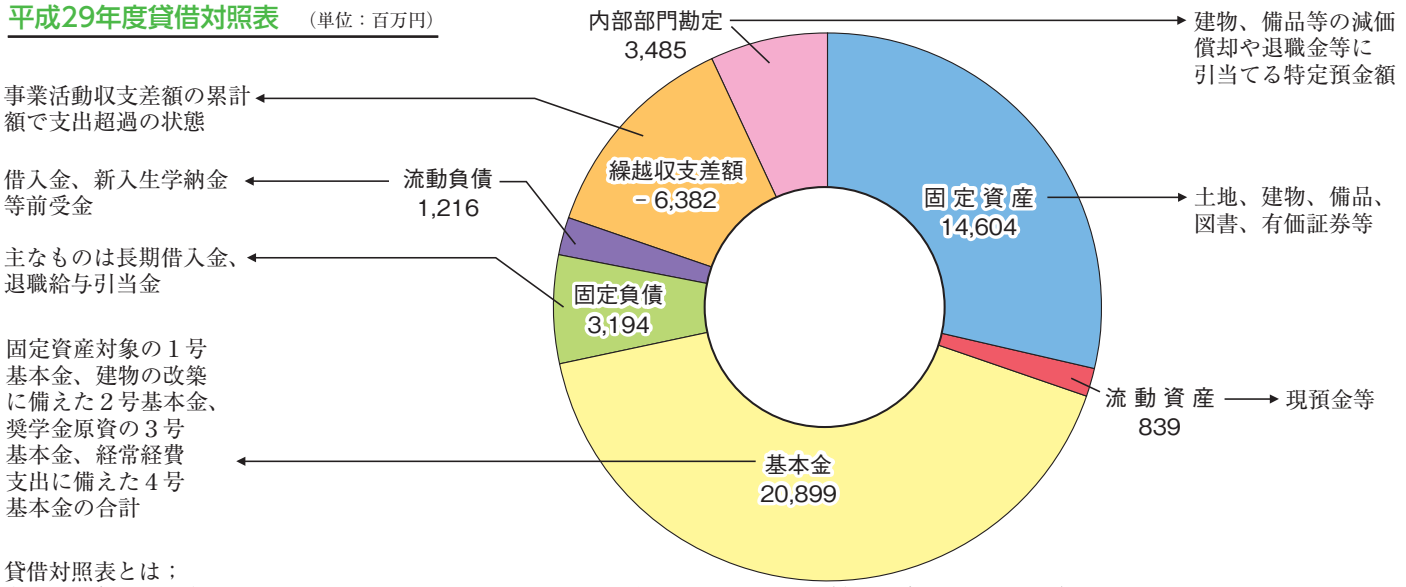
〈平成30年度予算について〉

平成30年度も、新学寮の竣工を予定するなど、キャンパス整備事業に伴う旺盛な資金需要が見込まれます。学寮の定員増加と寮費改定等による収入増も見込みつつ、引き続き経費節減を基本に早期の収支バランスの適正化を図るべく努力してまいります。

なお、決算・予算について詳しくは本学の公式ホームページに掲載しておりますので、本誌では平成29年度決算の概要のみを掲載しています。（ここに掲載した内容は、本学全体の財務状況を分かり易く示したものであり、本学を含めた法人全体の財務の整理の仕方とは若干異なります。）

管理部財務課次長　原田 耕

平成29年度貸借対照表　（単位：百万円）



貸借対照表とは；
資産及び負債・純資産の総額を対照表示し、期末時点の財政状態を表示したもの（資産、負債などの状況）

平成29年度事業活動収支計算書

科　目	決算額	
学生生徒等納付金	2,487	施設設備に係るものは「特別収入」に計上（175百万円）
手数料	64	
寄付金	74	
経常費補助金	195	寄付金と同様、施設設備に係るものは「特別収入」に計上（241百万円）
付随事業収入	192	
雑収入等	44	
教育活動収入計	3,060	
人件費	1,982	
教育研究経費	1,341	
管理経費	286	
教育活動支出計	3,609	
教育活動収支差額	－549	主に受取利息・配当金等の運用収入及び借入金利息
教育活動外収支差額	63	
経常収支差額	－485	
特別収支差額	437	
基本金組入前収支差額	－48	
基本金組入額計	－3,133	大部分がキャンパス整備に伴う第１号基本金組入
当年度収支差額	－3,181	
前年度繰越収支差額	－3,200	
翌年度繰越収支差額	－6,382	

事業活動収支計算書とは；
当該会計年度内の収支の均衡状態を明らかにするもの
（収入と支出のバランス状況）
（単位：百万円／未満は切り捨て）

平成29年度資金収支計算書

科　目	決算額	
学生生徒等納付金収入	2,487	新入生数増加に伴い前年比33百万円増収
手数料収入	64	
寄付金収入	250	
補助金収入	437	
資産売却収入	3,594	内部部門に預託する有価証券の入替えに伴う収入計上
付随事業収入	192	
受取利息・配当金	74	
雑収入	44	
前受金収入	836	
その他の収入	2,906	キャンパス整備のための減価償却引当預金取崩し等
資金収入調整勘定	－1,013	
前年度繰越支払資金	685	
収入の部　合計	10,561	
人件費支出	1,975	
教育研究経費支出	867	
管理経費支出	245	長期借入金の約定返済分
借入金等返済支出	300	
施設関係支出	2,646	主にキャンパス整備のための費用
設備関係支出	174	
資産運用支出	3,622	主に内部部門の預託の入替え及び減価償却特定資産繰入等
その他の支出	342	
資金支出調整勘定	－92	
次年度繰越支払資金	468	
支出の部　合計	10,561	

資金収支計算書とは：
当該会計年度内の諸活動に関するあらゆる収入、支出の内容を表したもの（資金の出入り状況）（単位：百万円／未満は切り捨て）

4号館だより

「核なき世界のために」

2018年6月29日（金）

ブリット記念ホールにおいて、2017年にノーベル平和賞を受賞したICANの国際運営委員を務める川崎哲氏による講演会「核なき世界のために」が開催されました。

昨年7月に採択された核兵器禁止条約の成立のために尽力されたNGOピースボート代表である川崎哲氏は、ICANの活動の中で広島や長崎の被爆者の方の声を世界に伝え、核兵器の非人道性を訴え続けています。当日は高校生を初めとして約100名の方々が熱心に耳を傾けていました。講演後の質疑応答では、大学生を始め、聖心女子学院高等科の生徒さんからも質問が活発に寄せられ、川崎氏も丁寧に応答されていました。

展示・ワークショップスペース BE＊hive 一部リニューアル

2018年5月7日～9月7日

BE＊hiveは大よそ2年ごとにテーマを設定し、半年ごとに小テーマを変えていきます。オープンから2019年3月までの最初のテーマは、「難民・避難民」です。小テーマは開館当初は「日本にいる難民」、そしてこの5月から「中東の難民・避難民」へとリニューアルしました。

またリニューアルに対応して、本学学生、姉妹校、卒業生や教職員たち向けのワークショップも随時無料で開催していますので、お誘いあわせの上お申し込みください。

お申し込みは
be-hive@g.u-sacred-heart.ac.jp まで

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業（科研費）は、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです（独立行政法人日本学術振興会ホームページより）。

以下は、平成30年度の本学専任教員の採択課題（新規＋継続）です。（掲載順は、研究種目・課題番号順）

木戸 功 基盤研究(B)
「現代家族の過程と実践をめぐる質的研究に対する組織的取り組み」

山口 昭彦 基盤研究(C)
「近世＝近代イランにおける「帝国」統治の変容とクルド系諸侯」

小城 英子 基盤研究(C)
「不思議現象信奉と心理学教育」

向井 隆代 基盤研究(C)
「児童養護施設入所児童の適応を支える要因とメカニズム―青年期までの追跡調査を通して」

今川 恭子 基盤研究(C)
「乳児の動的音楽性の可視化に関する研究：保育及び子育て現場への適用可能性の探求」

大槻 奈巳 基盤研究(C)
「派遣労働のキャリア形成：専門性・職域・年齢制限を軸とした社会学的アプローチ」

畑 浩一郎 基盤研究(C)
「19世紀フランス文学におけるイマゴロジー研究」

石井 洋子 基盤研究(C)
「東アフリカの「頭脳流出」をめぐる人類学的研究：在米ケニア・ギクユ人に焦点を当てて」

小柳 智一 基盤研究(C)
「副助詞を中心とした日本語文法史の多角的研究」

杉本 淳子 基盤研究(C)
「日本人英語教員の発音力向上を目的とした発音指導プログラムの構築と効果測定」

岸本 健 基盤研究(C)
「幼児の指さし産出の促進による言葉の遅れの予防効果」

奥切 恵 基盤研究(C)
「世界展開と高大接続のためのインターアクティブ・プレゼンテーション教授法の提案」

植田 誠治 基盤研究(C)
「がん教育を行う際の小児がんの子供に対する配慮についての研究」

益川 弘如 基盤研究(C)
「児童生徒が創る「授業に埋め込まれた学習評価」の支援システム開発と実践的実証」

高橋 雅延 挑戦的研究(萌芽)
「記憶方略に及ぼすステレオタイプの影響に関する実験的検討」

林 真樹子 若手研究(B)
「Dynamics of Skills Formation through Inclusive Education of Primary School Children without Disabilities in Cambodia」

五味 知子 若手研究(B)
「近世・近代の中国におけるジェンダーイメージの構築と変容：メディアと裁判に着目して」

Corbeil Steve 若手研究(B)
「The Social and Cultural Impact of Literary Translators in Japan from 1950 to 1970」

柴田 玲子 研究成果公開促進費（学術図書）
「小学2年生の適応と規定要因に関する縦断研究」

学校法人 聖心女子学院 生涯学習センター

生涯学習センターは、キリストの精神に基づく学院の建学の精神・理念を踏まえつつ、卒業生、学生を含め、広く一般に生涯学習の機会を提供することを目的として開設されたものです。

「都会の緑の中で“自分を磨く”」これが、生涯学習センターの目指すところです。

2018年度 後期講座のご案内

開講予定の講座は、左記の通りです。

詳しくは学校法人本部のホームページでご確認下さい。

9月	日常生活と聖書 シスター岩井 慶子（聖心会）
9月	キリスト教への招きⅣ 宮越 俊光（カトリック中央協議会）
9月	禁忌の恋はどう語られたか ―藤壺の物語を読む― 大津 直子（國學院大學助教）
10月	『伊勢物語』を読む 山口 佳紀（聖心女子大学名誉教授）
10月	浮世の物語 ―西鶴の『西鶴諸国ばなし』を読む― 深沢 了子（聖心女子大学教授）
10月	心理学的「見方・考え方」とは何だろう? 鈴木 乙史（聖心女子大学名誉教授）
10月	「大人のための算数教室」 ―使えると便利な日常生活の中の算数― 塚田 亮（元渋谷区立臨川小学校長）
11月	メディアと社会心理 ―社会心理学への招待― 小城 英子（聖心女子大学准教授）
11月	お茶会はじめ第4弾 クリスマス茶会 植木 宗麗（裏千家教授）
11月	戦のない江戸時代、「刀剣」はどのように扱われたか 深井 雅海（元 聖心女子大学教授）
11月	特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」を鑑賞する 皿井 舞（東京国立博物館 学芸研究部 調査研究課絵画・彫刻室 主任研究員）
12月	東京散歩シリーズ第2弾 大人のための動物園への誘い 土居 利光（日本パンダ保護協会長・前恩賜上野動物園長）

第54回 聖心祭

第53回聖心祭にて

10月20日(土)21日(日)

本年度の第54回聖心祭は10月20日㈯10時～17時・21日㈰10時～16時に開催いたします。私たち聖心祭実行委員会はこの２日間に向け、日々活動しております。

今回のテーマは『心』にいたしました。「心」がつく言葉といえば、聖心の「心」、真心の「心」などがございます。その中で聖心生全員がどのような「心」を持ちながら聖心祭を迎えたいかを考えて参ります。さらには、一人一人の「心」をひとつにして、聖心祭に来てくださる皆様をお迎えしたいと思っております。

本年度は60団体以上が展示・公演・物品販売などを行い、学内の団体だけでなく学外の方にもご協力いただく予定です。

昨年新しくオープンした４号館、改修工事が完了したマリアンホールを含め、校内全体で楽しめて魅力溢れる企画が多種多様にございますので、ぜひいらしてください。聖心祭実行委員一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

第54回 聖心祭実行委員長 荻原 満美

学生の活躍

世界シンクロナイズドスケーティング選手権に参加して

昨年11月にシンクロナイズドスケーティングを始めて、今年の４月にスウェーデンで開催された世界選手権に出場することができました。約10年間続けていたシングルのスケートを辞めて３年のブランクを挟んだうえでのスタートで、さらに団体で滑るということが全くの未知の世界で初心者に戻ったようでした。自由に滑っていたシングルの時とは違い、細かい顔の動きや手の高さに気を配るなど団体ならではの苦労もありましたが、その分、かつて味わったことのないチーム競技の良さを、世界選手権という舞台で、その会場の雰囲気や歓声から肌で感じることができ貴重な経験となりました。

北島 亜夢（基礎課程）

災害復興支援チャリティデーを開催しました

昨年度学食で行われたチャリティデーは、本年マリアンホールに戻ってまいりました。梅雨寒の１日でしたが、開始早々バザーでお買い物をする方々でホールは満杯となり、終日熱気にあふれておりました。また、ダンスや歌の公演が復活し、多くの展示も加え、本学のチャリティデーらしい雰囲気となりました。被災地の復興が進むにつれ、報道に触れる機会は減ってまいりましたが、いまもって多くの方々が苦しい生活や困難な状況にあることを忘れてはなりません。そのため、本年度は、会場全体で、支援活動の報告などをしっかりと聞いていただく時間を設けました。そして、最後に、歌とお祈りを通じて、会場がひとつの思いに結ばれました。チャリティデーの収益は、大学や姉妹校の行う復興支援活動などに活用してまいります。ご参加いただいた多くの方々の思いを忘れず、今後の活動に取り組んでまいります。みなさまのご支援に感謝しますとともに、今後もご理解・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

災害復興支援チャリティデー実行委員長
上石 学

※宮代ホールでは、キリスト教文化研究所主催「被災地復興と新しい生き方」（講師：東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授の弓山達也氏）が行われました。公開講演会については、キリスト教文化研究所のホームページをご覧ください。

第37回 教養講座を開催しました

2018年５月20日㈰、第37回教養講座として、英国劇団インターナショナル・シアターカンパニー・ロンドン（ITCL）による『ロミオとジュリエット』公演が行われました。国際化推進のための公開講座（英語英文学科・大学院英語英文学専攻共催）として定着したITCLによるシェイクスピア劇公演は、本学ではこれが８回目となります。

今回は特別に、公演に先立って、著名な演出家ポール・ステッビングズ氏を迎え、本学英語英文学科卒業生酒井もえ先生の通訳で、客席とのQ＆Aを交えたトークセッションを行いました。ロミオ役・ジュリエット役の俳優さんのお話もうかがえ、たいへん好評でした。公演もすばらしく、宮代ホールを埋め尽くす観客の皆様にたっぷりお楽しみいただくことができました。

日本語字幕は、本学科安達まみ教授と酒井先生の監修、大学院生・大学院修了生翻訳によるもので、今回のITCL全国公演でも使用されました。

ご尽力いただきました学内各方面に感謝申し上げます。

中川 僚子（英語英文学科・教授）

宮代会だより

同窓会宮代会は、母校とのつながりを大切に、さまざまな活動を行っております。

【宮代会館】

南門を上がった左手にある会館では、福祉活動をはじめ会報の発行、宮代祭の開催等行事の運営に、役員、理事を中心に同窓生が携わっております。

地下一階の事務室では、同窓生スタッフが会員の名簿の管理、会館で行われるお稽古、活動のサポートなどをしております。様々なジャンルのお稽古は、学生の皆様も参加いただけます。

【留学生昼食会】

5月24日㈭、大学で学ぶ交換・短期・学部留学生29名と学長をはじめ大学関係者、サポートの学生の方々をお招きし、同窓生の手料理で親睦交流を行いました。

大学グリークラブの皆様にも参加いただき、美しい歌声で校歌を披露してくださいました。

【災害復興支援チャリティデー】

6月16日㈯、大学主催のチャリティデーに参加いたしました。被災された方々のことを忘れず、支援活動に協力してまいりたいと思います。

【奨学金給付】

本年度も「宮代会奨学金」を博士課程前期一年生一名に、「宮代会特別奨学金」を大学四年生三名に給付を決定いたしました。研究に励む学生を支援し母校への貢献を続けてまいります。

【グローバル教育環境整備募金】

「世界の一員としての連帯感と使命感をもって、より良い社会を築くことに貢献する賢明な女性を育成する」という使命達成に向け、４号館（新棟）の整備、新学寮の建設など大規模なキャンパス整備を実施しています。このため、2017年１月より３ヵ年にわたり、皆様方からのあたたかいご支援をお願いしております。

■ご寄付の状況（2018年５月末日現在）

件数：646 件　　総額：１９３,７７９,１９１円

寄付者ご芳名（2018年１月～2018年５月末）

グローバル教育環境整備募金につきまして、ご寄付をいただいた方々のご芳名を掲載し、深く感謝申し上げます。なお、ご芳名は掲載に同意いただいた方のみとなります。

【掲載要領】

1．ご芳名は、上記期間に寄付申込書のご提出とご入金の確認が取れた方々について、お送りした領収証の宛名に記載の名義で掲載しております。なお、敬称は省略させていただきました。
2．金額掲載に同意された方については、金額別に五十音順で掲載しています。金額掲載に同意されていない方については、「ご芳名のみ」として五十音順に掲載しています。なお、芳名録への掲載に同意されなかった方につきましては、匿名として件数のみ掲載しております。
3．団体・法人については、代表者等のお名前は省略させていただきました。

■3,000,000円
日本聖心同窓会

■2,000,000円
宮代会関西支部

■1,173,760円
宮代会

■1,000,000円
株式会社コーセー
ヒゲタ醤油株式会社
株式会社
アイビー・シー・エス
濱口　敏行

■500,000円
東急建設株式会社

■300,000円
第一工業株式会社
ハーモニープラス株式会社
安達　まみ

■200,000円
株式会社小松ストアー

■120,000円
宮代会24回生有志

■100,000円
齋藤　信子
犬尾　順子
株式会社防災企業

■50,000円
野本　敦子

■35,000円
清水　紀子

■30,000円
髙橋　喜久子
加藤　麻理
森成　典子

■ご芳名のみ
安保　厚子
荒木　源徳
池上　芳子
植田　誠治
上山　千穂
大塚　美保
岡崎　治子
白根　妙子
高橋　佳子
田畑　江里子
西村　直章
冨士機材株式会社
的場ミルク株式会社
峯岸　佐知
森口　耀子
和田　周子

■匿名　20件

ご寄付・ご支援のお願い【グローバル教育環境整備募金】

【募金に関するお問い合わせ先】　聖心女子大学管理部財務課／電話：03-3407-5811（代表）
E-mail:e-zaimu@u-sacred-heart.ac.jp

●寄付金ホームページＵＲＬ：　https://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/contribution.html
（「聖心女子大学　寄付金」で検索してください）
※ Web 画面からの申込み・クレジット決済も可能です。

発行　聖心女子大学　〒150-8938　東京都渋谷区広尾4-3-1　TEL 03-3407-5811(代表)　編集　聖心女子大学　広報・社会連携部　広報課　発行　年4回（3・5・7・11月）

懇談会で発表された
活動を紹介します。

「エネルギーの上流と下流を繋ぐスタディツアー」報告

2018年２月、教育学科学生22名と教員２名による「エネルギーの上流と下流を繋ぐスタディツアー（福島県いわき市）」が行われました。展示やお話を通して、当時の被害状況・避難所の様子を深く知るとともに、「ふたば未来学園高校」の生徒さんに、町の様子や今は休校となっている小学校の案内をしてもらい、現在の状況を知ることができました。菊田小学校では、防災教育について校長先生のお話を聞き、そして子どもたちと共にネパールの学校へ送る太陽光パネルづくりとメッセージ書きを行いました。これらは春にネパールの学校へ無事届けられました。この活動は、東日本大震災の際に受けた世界中からの支援に対して、「自分たちも何かしたい」という子どもたちの声に応じてはじまったものです。私たち学生も高校生や子どもたちから一歩踏み出す勇気と大きなパワーをもらうツアーとなりました。

教育学科初等教育学専攻４年
松浦 帆花

東日本大震災に伴う支援活動の振り返りと今後

聖心女子大学では2012年６月から、東日本大震災の復興支援活動を行ってきました。毎年、月に１回程度のペースで学生と教職員を陸前高田市に派遣し、主に、仮設住宅での生活でストレスがたまっている子どもたちが、自由にのびのび遊べる場を提供してきました。しかし、仮設住宅がほぼ解消されたことから、「みちくさルーム」と呼ばれたこの活動は昨年度一杯で終了することになりました。この６年間を数字で振り返りますと、派遣回数は60回、参加した学生数はのべ322名、そして共に遊んだ子どもたちは1339名になりました。ここまで長期的かつ定期的な活動を行ってきた大学は少ないということで、地元の人たちやNPOの職員の方々からも高い評価を頂きました。

今後も夏休みに特別イベントを行うなど単発的な活動は続けますが、2018年度からは新たに福島県南相馬市で、USHひとづくり・まちづくりボランティア in 南相馬と名付けた活動が始まります。今年は７回ほど、学生と教職員で現地を訪れ、子ども支援とともに現地のサロン活動などをお手伝いさせていただきます。

菅原 健介（人間関係学科・教授）

課外活動団体の取り組みを
紹介します。

５月12日に本学で開催されたエシカルフェスタにて

SHRET
Sacred Heart RET

難民支援団体SHRETは今年度、部員総勢102名の大きな団体となり、今まで以上に活動の幅を広げて精力的に活動しています。特に、５月12日に行われたエシカル協会主催のエシカルフェスタでは、Earth in Mind, SFTという地球環境やフェアトレードを扱った２団体と協力して運営に携わったことで、私達自身の生活の在り方を考えるきっかけになっただけでなく、他団体と協働することで学生にできることは無限大に広がるのだと感じることができました。

今後も私達３団体をはじめ多くの学生を巻き込みながら、この聖心女子大学からより良い世界になるための希望の種を生み出していきたいと思います。

Earth in Mind

「Earth in Mind」とは、「心に地球を」という意味です。私たちのクラブは持続可能な社会を目指すためにはどうすれば良いのかを考え、SDGsに沿って様々な分野から学びを深める活動をしています。今年度は「エシカル消費」をテーマに、イベント参加や企業の訪問などを通して、積極的に学習をしています。少人数のクラブならではのアットホームな雰囲気の中、各々が問題意識を持って行動することができ、大変やりがいのある楽しいサークルです。

SFT
Sacred Heart for FAIR TRADE

★フェアトレード商品を、学内や聖心祭、広尾商店街でのイベントで販売しています。寄付という一方的なものではなく、「買い物」という形で経済活動を支援するのがフェアトレードです。低開発地域の人々の自立と生活改善を目指す新しい形の国際協力を通して、私たち自身も成長していきたいと思っています。

★私たち学生が身近にできる国際協力として、今年度はフェアトレードチョコレートのパッケージをデザインして販売するという「まちチョコ」を作成します。フェアトレードをより手軽で身近に感じられるように、さまざまな工夫をこらしながら、フェアトレードを広める活動をしていきます。

大鮪祭り 2018

M.S.S.S.
Madeleine Sophie Social Services

M.S.S.S.は、４つのセクションに分かれての活動と、全体活動を行っています。

全体活動では、５月に広尾商店街で行われた、大鮪祭りに参加しました。今年も大盛況で、私たちは鮪丼の販売のお手伝いなどをさせて頂きました。また、６月にはフードセールを行いました。手作りのクッキーを販売し、売上金を「ピナット～外国人支援ともだちネット」様に寄付致しました。そして、現在は８月５日に広尾商店街で行う、広尾打ち水大作戦の準備をしております。皆様に楽しんで頂けるよう、企画をしておりますので、ぜひいらしてください。

聖心女子大学2010年度卒業生（61回生）の集いについて

聖心女子大学・宮代会　共催

東日本大震災により卒業式を挙行できなかった2010年度卒業生（61回生）の集いを下記日時にて行います。詳細は大学ホームページにてご確認ください。

10月27日（土）　14時より　聖堂にて

引続き学生食堂にて茶話会を予定しております。

【問い合わせ先】
宮代会
TEL：03-3407-1971
※受付時間：月～土 10：00～16：00
E-mail：miyasiro@u-sacred-heart.ac.jp